

## 第15回「ふくしま景気ウォッチャー調査」アンケート結果について

当研究所では、街角の景況感調査として、標記アンケートを4月に実施しました。内閣府の景気ウォッチャー調査では県別の数値が公表されていないことから、同調査の「福島県版」として「家計動向関連」について当研究所で独自に実施しているものです。本調査は2014年6月に開始、以降、4月と10月の年2回、回答対象者を一般消費者と身近に接している小売業や飲食業などの家計動向関連の方に限定し実施しております。今回は特別調査として前回（2020年10月実施）に引き続き「新型コロナウイルス感染拡大による影響」について尋ねております。

今般、調査結果をとりまとめましたのでお知らせいたします。なお、詳細は当研究所機関誌「福島の進路」6月号（5月27日発行）に掲載いたします（当研究所ホームページでもご覧いただけます）。

[福島の進路](#)

[検索](#)

### 1. 消費動向

ウォッチャー（アンケート調査回答者）が、日々の仕事を通じて接しているお客さまの様子などから把握できる消費動向（購買状況）について尋ねた。

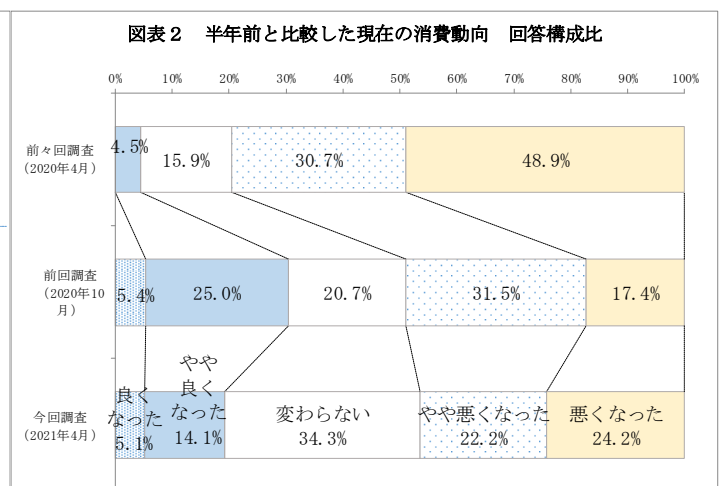
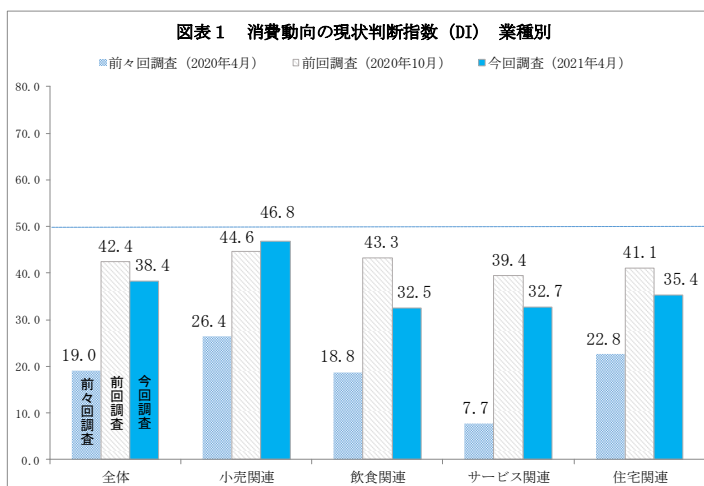
#### （1）消費動向の現状判断（半年前と比較した現在）

**G・O・T・Oキャンペーン効果のあった半年前との比較となるため、判断指数はやや悪化した。**

- 消費動向の現状判断指数は、全体で38.4（前回調査比△4.0ポイント）と前回調査からやや下降した（図表1）。判断指数は横ばいを示す50を下回り、第4回調査（2015年10月実施）以降12回連続で下降局面であると判断された。
- 半年前（昨年10月時点）との比較で、今回がコロナ第4波の到来した時期でもあり、良くなっているとプラス判断したウォッチャーが減少したことで判断指数がやや悪化した（図表2）。

#### ◇業種別

- 小売関連46.8（前回調査比+2.2ポイント）のみが上昇し、他の3業種は下降となり、特に飲食関連32.5（同△10.8ポイント）で下降幅が大きかった（図表1）。



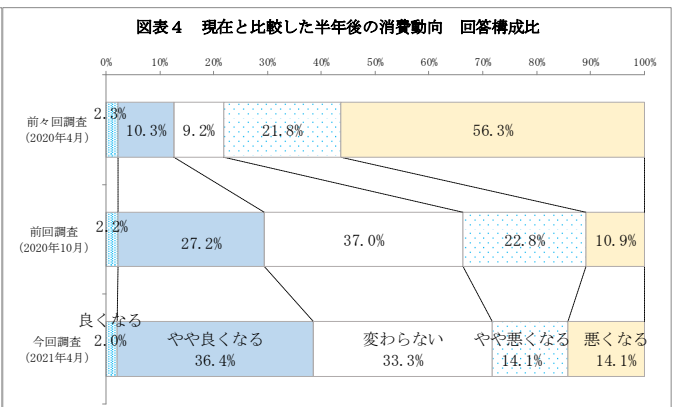
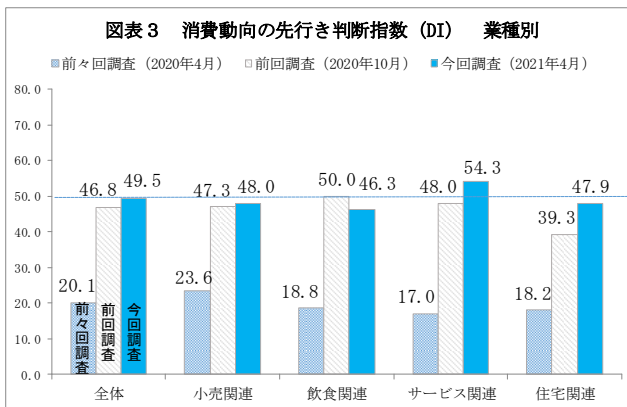
(2) 消費動向の先行き判断 (現在と比較した半年後)

**ワクチン接種への期待などから先行きを良く捉えるウォッチャーが増え、横ばいを示す50に近づく水準となった。**

- 消費動向の先行き判断指数は全体で 49.5 (前回調査比+2.7 ㊦) とやや上昇し、依然として下降局面と判断されているものの、横ばいを示す50に近づく水準となった (図表3)。
- 「良くなる」「やや良くなる」とプラス判断した割合が前回調査の約3割から今回は約4割に増加したことで、判断指数がやや良化した (図表4)。

◇業種別

- 最も判断指数が低い飲食関連でも 46.3 (同△3.7 ㊦) と横ばいに近い水準にあるなど、業種を問わず先行きを良く判断するウォッチャーが増えた (図表3)。



2. 景気動向

ウォッチャー自身の回りの景気 (経済情勢) について尋ねた。

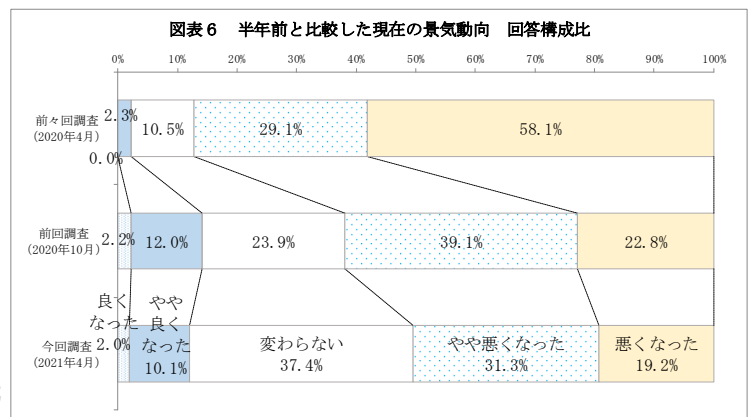
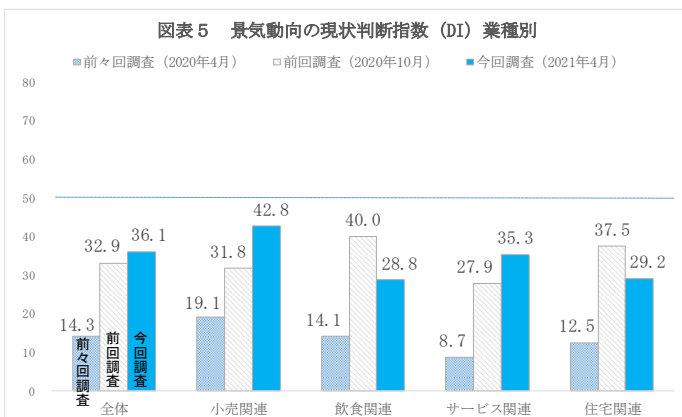
(1) 景気動向の現状判断 (半年前と比較した現在)

**マイナス判断するウォッチャーの割合が低下したことで、判断指数が上昇したものの、判断指数の水準は依然として低い。**

- 景気動向の現状判断指数は全体で 36.1 (前回調査比+3.2 ㊦) とやや上昇したが、判断指数は横ばいを示す50を大きく下回り、下降局面と判断された (図表5)。
- マイナス判断したウォッチャーの割合が大きく 11.4 ㊦低下したことで判断指数が上昇した。ただし、マイナス判断は5割を超えており、依然としてマイナス判断するウォッチャーが多かった (図表6)。

◇業種別

- 判断指数が40以上であるのは小売関連 42.8 (前回調査比+11.0 ㊦) のみである (図表5)。



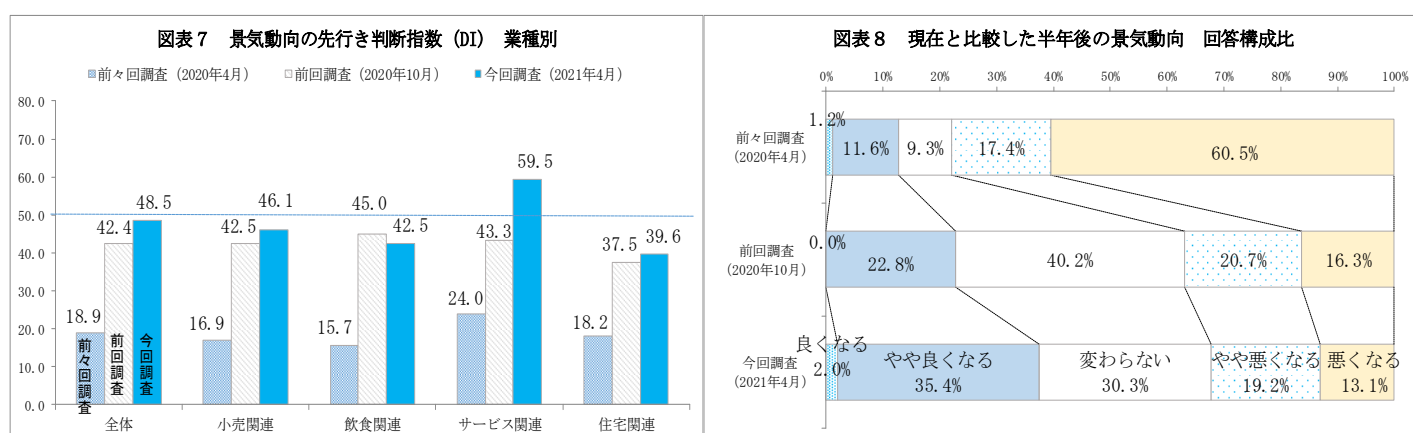
## (2) 景気動向の先行き判断（現在と比較した半年後）

**サービス関連を中心に判断指数が上昇し、横ばいを示す 50 に近づく水準となった。**

- ・景気動向の先行き判断指数は全体で 48.5（前回調査比+6.1 ㊦）と、依然として下降局面であると判断されているものの、判断指数が上昇し横ばいを示す 50 に近づく水準となった（図表 7）。
- ・プラス判断したウォッチャーの割合が前回調査の約 2 割から今回約 4 割に増加、マイナス判断したウォッチャーの割合がやや減少したことで、判断指数が上昇した（図表 8）。

### ◇業種別

- ・サービス関連 59.5（前回調査比+16.2 ㊦）は、旅館・ホテルのウォッチャーを中心にプラス判断の回答が多くあったことで判断指数が大きく上昇し横ばいの 50 を超え、上昇局面と判断された（図表 7）。



## 3. 地域別の消費・景気動向

**消費動向の先行きは県南など 3 地域で 50 を上回り上昇局面と判断された。**

### ◇消費動向の現状判断

前回調査比で上昇したのが県南 45.5（前回調査比+12.2 ㊦）のみであった（図表 9）。

### ◇消費動向の先行き判断

県南 56.9（同+12.4 ㊦）、会津・南会津 55.0（同+6.8 ㊦）、県中 52.1（同+6.6 ㊦）の 3 地域で 50 を上回り上昇局面と判断された（図表 9）。

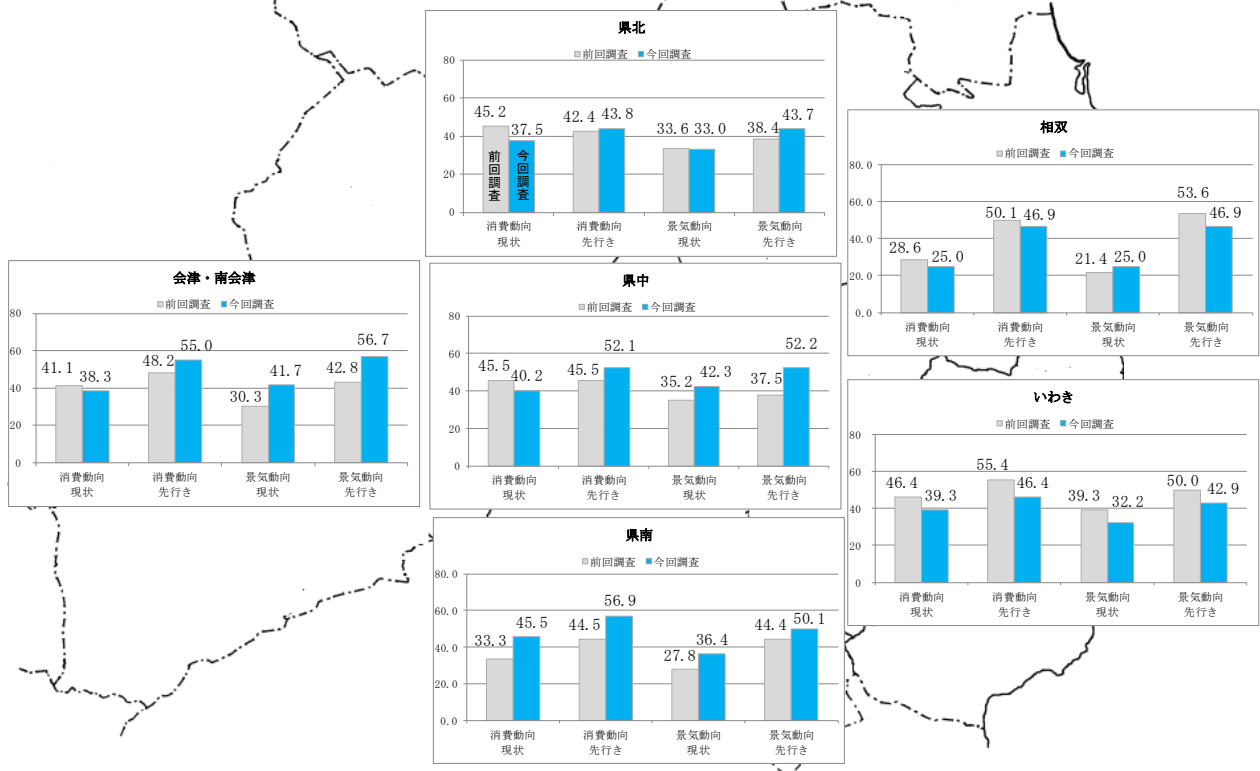
### ◇景気動向の現状判断

最も高い県中でも 42.3（同+7.1 ㊦）であり、県中、県南、会津・南会津、相双の 4 地域で上昇しているものの、依然として判断指数の水準は低い（図表 9）。

### ◇景気動向の先行き判断

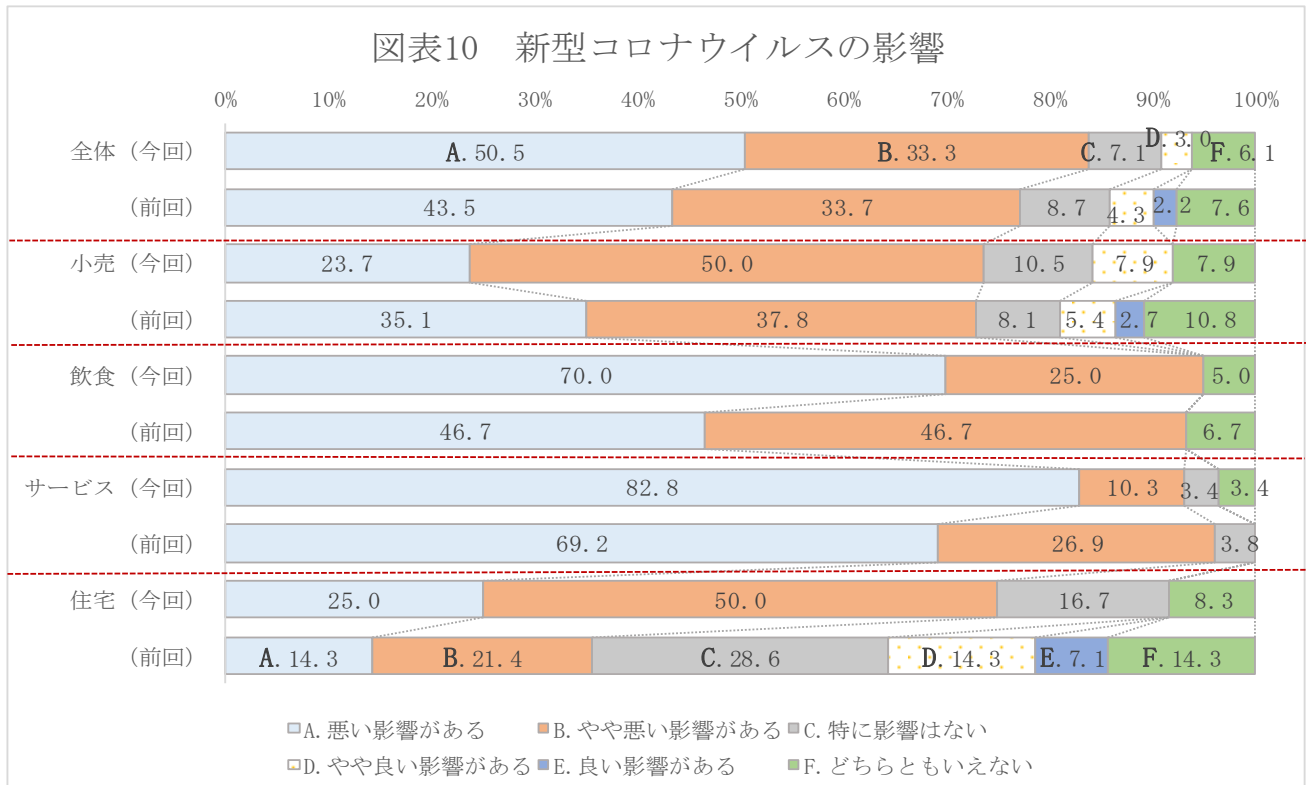
会津・南会津 56.7（同+13.9 ㊦）、県中 52.2（同+14.7 ㊦）、県南 50.1（同+5.7 ㊦）の 3 地域で判断指数が 50 を超え、上昇局面であると判断された。コロナの影響は依然として続く中であっても、一部地域では景気動向の先行きは上向くものと判断されている（図表 9）。

図表9 地域別の消費動向・景気動向判断指数 (DI)



#### 4. 新型コロナウイルス感染拡大による影響（自社の業況への影響）

◇ 全体では「悪い影響がある」または「やや悪い影響がある」とマイナス回答したウォッチャーが合わせて83.8%（前回調査比+6.6ポイント）と、前回調査より増加し8割を超えた（図表10）。



## 5. まとめ

- ◇ 内閣府の景気ウォッチャー調査（2021年4月調査、毎月実施）における家計動向関連調査では、景気の現状判断DIが35.4（前月比△11.9ポイント）、景気の先行き判断DIは40.0（同△9.0ポイント）となっている。調査時期が内閣府と当研究所で異なっているものの、当研究所調査では本県における消費動向の現状判断DIが38.4（前回調査比△4.0ポイント）、先行き判断DIが49.5（同+2.7ポイント）と、本県においては現状判断が全国と同水準である一方、先行き判断は比較月の違いから全国水準を上回っている。
- ◇ 今回調査はコロナ第3波に伴う緊急事態宣言（首都圏の1都3県）が3月21日に解除されたものの、コロナ第4波の進行から不要不急の往来や大人数での飲食（送迎会やお花見）を控えるよう人流抑制を呼びかけられていた時期であり、消費動向の現状判断指数はやや悪化した。一方、消費動向の先行き判断は、ウォッチャーから寄せられた「街の声」にコロナワクチン接種が進むことや東京オリンピック・パラリンピックが開催されれば、情勢が好転するだろうという意見が多く寄せられるなど、先行きへの期待感から現状（4月）よりも良くなると判断したウォッチャーが増えたことで良化した。
- ◇ 本県でも高齢者向けコロナワクチン接種が4月12日の郡山市を皮切りに開始しており、対象となる16歳以上の県民に広く行きわたれば、コロナ感染が収束に向かい、経済活動が正常化することが期待される。加えて、県民は感染拡大を防ぐために感染防止に即した行動を心掛けること、行政はコロナの悪影響を受ける事業者の経営支援を行っていくことが必要ではないかと思われる。

※DI (Diffusion Index) …本調査では、現在と比較した半年前または半年後の方向性を点数化し、50を上回れば上昇局面、50を下回れば下降局面と判断している（P 6の5番の判断指数の算出方法を参照）。

以上

○調査要領

1. 調査対象者

県内の景気の動きを実態面から敏感に観察できる立場の方132名

2. 回収状況

有効回答数 100 名 回答者の業種・地域内訳は6・7のとおり  
回収率 75.8 %

3. 調査時期

2021年4月  
(年2回、4月と10月に実施)

4. 調査内容

- (1) 半年前と比較した現在の消費動向
- (2) (1)の判断理由
- (3) 現在と比較した半年後の消費動向
- (4) (3)の判断理由
- (5) 半年前と比較した現在の景気動向
- (6) 現在と比較した半年後の景気動向
- (7) 新型コロナウイルスの影響

※(1)(3)(5)(6)は5段階評価による回答とする。

※本稿では、消費動向は日々の仕事を通じて接する顧客の様子から把握できる購買状況、景気動向は回答者の身の回りの経済情勢のことを指す。

5. 判断指数(DI値)の算出方法

5段階の回答区分に、それぞれ下図のとおり点数を与え、それらに各回答区分の構成比(%)を乗じてDI値(Diffusion Index)を算出する。

DI値は50を判断の目安としており、50を上回っていれば上昇局面、50を下回っていれば下降局面と判断する。

回答区分	良くなった 良くなる	やや良くなった やや良くなる	変わらない	やや悪くなった やや悪くなる	悪くなった 悪くなる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

6. 調査回答者の所属分野・業種

分 野	調査対象者の代表的な業種
小売関連 (39名)	一般小売店 スーパーマーケット コンビニエンスストア など
飲食関連 (20名)	料理店 酒場 など
サービス関連 (29名)	旅館・ホテル タクシー 娯楽 理美容 など
住宅関連(12名)	住宅・不動産販売

7. 対象地域の区分

地 域 (調査回答者数)	市 郡 名
県北(29名)	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、伊達郡、安達郡
県中(23名)	郡山市、須賀川市、田村市、岩瀬郡、石川郡、田村郡
県南(11名)	白河市、西白河郡、東白川郡
会津・南会津(15名)	会津若松市、喜多方市、耶麻郡、河沼郡、大沼郡、南会津郡
相双(8名)	南相馬市、相馬市、双葉郡、相馬郡
いわき(14名)	いわき市

本件に関する質問・お問い合わせ先  
担当：高橋  
TEL 024-523-3171 (9:00~17:00)